

小学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成28年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、言葉の意味や使い方、文章の読み取り、文字の構成、ローマ字などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.8%下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	72.1	70.3	72.9	-0.8



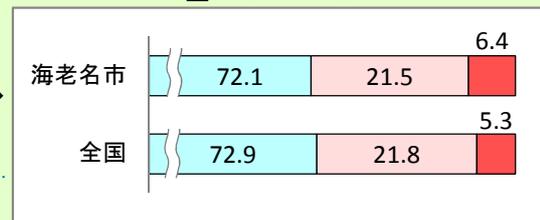
誤答の様子は…



分布の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は6.4%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が4問、7問、11問の児童
が特に多く
12問以上の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~7問)の児童の割合は
16.2%でした。(全国は15.1%)

* 正答率80%以上(12~15問)の児童の割合は
47.6%でした。(全国は50.3%)

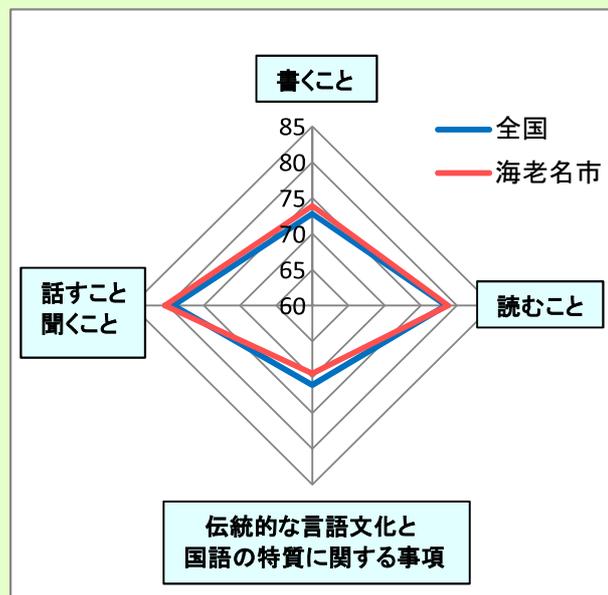
領域別の正答率

3領域において全国と比較して
やや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	80.4	79.2	+1.2
書くこと	73.9	72.8	+1.1
読むこと	78.8	78.5	+0.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	71.1	-1.6

* 「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、1.0%以上、上回っていました。

* 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、1.6%下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った
設問

- 最初に書いた文と書き直した文を比べ、どのような助言をもらったか選ぶ。(+3.0)
- 漢字を読む。(快晴) (+2.6)
- 漢字を書く。(種をまく) (+1.5)

全国を下回った
設問

- 漢字を書く。(親しい) (-5.0) (相談) (-2.8)
- 漢字を読む。(省く) (-5.0)
- ローマ字を読む。(hyaku) (-4.7)
- ローマ字を書く。(asatte) (-3.2)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

漢字の読み書きの設問

次の文の —— 部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

した しい友人と出かける。 (全国との比較-5.0%) 正答 親(しい)

先生に そうだん する。 (全国との比較-2.8%) 正答 相談

次の文の —— 部の漢字の読みを、ひらがなでていねいに書きましょう。

おたを 省く ようにする。 (全国との比較-5.0%) 正答 はぶ(く)

ローマ字の読み書きの設問

次の言葉を、例のように、ローマ字でていねいに書きましょう。また、ローマ字は、ひらがなでていねいに書きましょう。

あさって (全国との比較-3.2%) 正答 asatte

hyaku (全国との比較-4.7%) 正答 ひゃく

(例) [いぬ] ⇨ inu

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が12問以上の児童が少なく、9～11問の児童が多い傾向があることから、基礎的な力は身につけてきているが、さらに確実な定着を図る必要がある。
- ◆ 漢字の読み書きやローマ字の読み書きなどの言語事項に課題があり、確実に身につけるための指導の工夫が求められる。文字の大きさや配列に対する意識は全国と比べてやや高い。
- ◆ 目的に応じて図と表を関連づけて読むことはできているが、複数の叙述を基にして自分の考えをまとめることには課題がある。

これまでとの比較



- ◆ 平成26・27年度は全国との差が同じだったが、平成28年度は差が小さくなっている。
- ◆ 平成26・27年度は全領域において全国を下回っていたが、平成28年度は3領域で上回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「言語事項を確実に身につける」ために
 - 漢字やローマ字の活用について、日常の中で繰り返し指導する。
- ◆ 「読む力を高める」ために
 - 一問一答ではなく、複数のことを考えあわせてよりよい考えを導くような活動を取り入れ、指導する。